観光文化スポーツ部県民文化スポーツ課
菊地 千恵子　文化振興専門員

昭和 55 年度入庁。
保健薬務課生活衛生主査
秘書広報課広聴相談主査、調整主査
環境企画課総務主査
子育て支援課少子化対策専門員を歴任後、
平成 29 年度から現職。

「猫が癒し」という、菊地専門員。
猫の生き方（「今を生きる（先の事は憂うことなく）」「最期の時まで自力で歩く」等）から学ぶことも多いのだそうです。

印象に残っている仕事

私は初級行政での採用なのですが、採用当時は男女雇用機会均等法成立前で、まだ男女別での採用でした。私が採用された何年か後に、男女別の採用という区分もなくなり、だんだんと任される業務内容も広がっていったというような状況です。

◎　できたばかりの「村山総合支庁」で

40 歳の頃、ちょうど総合支庁制度が始まり、村山総合支庁総務課の配属になりました。それまでは税務関係の職場での勤務が長かったのですが、初めて広報関係の担当をすることになり、ホームページの作成等も一から勉強する日々でした。

そういった中で、初めて「県民のあゆみ」のページを任されました。出来上がった時に、当時の村山総合支庁長が、「良い記事だったね。よかったね。」と声をかけてくださったんです。一生懸命仕事をしたことを見てくれていて、そして褒めてもらえたというのが素直に嬉しかった記憶があります。

自分自身の経験から、仕事でも子育てでも、「褒める」というのは大事なことだと思っているので、懇親会の席では上司に「若手をどんどん褒めてあげてくださいよ」という話をしています。

また、上司だけでなく、同僚にも恵まれましたね。「同じ目標に向かって頑張れる仲間」だったと感じています。そういう時って、忙しくても不思議と頑張れるんですよね。

総合支庁２年目の時は、「総合支庁フェスティバル」というイベントを開催しました。できたばかりの総合支庁に親しんでもらおうと、若手職員が発案したアイディアを活かした企画で、各課が業務に関連するワークショップ等を開催する等、県民の方々に参加してもらう形のイベントでした。その時も初めてのことばかりでしたが、皆でイベントを作り上げることができ、当日もたくさんの方々に来ていただくことができました。

◎　人との巡りあいは「財産」

20 代前半の頃に、福祉関係の部署で勤務していた時のことですが、福祉施設に勤務する職員の人たちを対象とした研修の企画を担当していました。初めてのことでしたし、試行錯誤しながらでしたが、当時の上司が「私が責任をとるから、自分で考えて好きなようにやってみたらいい」と言ってくれました。とても心強かったですし、だからこそ頑張ろうと思えましたね。良い上司に恵まれてきたなあと感じています。

また、上司だけでなく、部下にも恵まれた経験があります。環境企画課で庶務を担当していた頃、女性だけの５人の係で、ちょうど２人が産休に入ることになり、更に１人が退職することになりました。私ともう１人の部下が残る形になったのですが、その時の部下が非常に頼りになる方でした。お互いこまめに情報を共有し合い、話し合いながら、産休明けの２人が戻ってくるまで一緒に頑張ったことが印象に残っています。

女性職員の人数が増えてきている中で、これから産休や育休を取得する人、支える人どちらも多くなってきますよね。休む人は「申し訳ないな」と思う気持ちもあるかもしれませんが、産休や育休から戻ってきたら、次は自分が支える番になるわけですから、必要以上に気にかけることはないと思います。病気でも家族の介護でも、いろんな理由で、いつ自分が休む立場になるかはわからないですし、常に「お互いさま」の気持ちで仕事をしていけたらと思いますね。

◎　まず、「耳を傾ける」姿勢を

県民相談室に勤務していた頃は、伝える前に「まず耳を傾ける」ことの大切さを学んだ時期でした。県民の方に対しても、職員同士でも、まず相手の話をきちんと聞いたうえで、こちらの伝えたいことを丁寧に説明するという姿勢の大切さを改めて感じました。

また、この課ではこういう業務を担当している等、県庁全体の業務についてわかるようになったというのも良い経験になりました。県民相談室では、「●●の担当課はどこでしょうか？」という問合せもありますから、「あの部署ではこういう業務を担当しているんだな」と把握しておく必要がありました。他の課に異動になっても、自分の課以外の担当業務を把握しておき、県民の方からの問合せがあれば１回で繋げるようにしようと心掛けています。

仕事をしていると、どうしても自分の目の前の担当業務だけに集中してしまいがちですが、県民の方々からすると、私たちは皆「県職員」なのですから、どこの課でどんな業務をしているのか、ということを知っておくのも大切なことだと思います。

《子育て支援課 結婚支援担当　仲人養成講座の進行》

心がけていること

① 断らない。まずは、やってみる。

「できないから断る」のではなくて、やってみることが大切だと思っています。以前、子育て支援課で婚活支援プログラムを担当していた際に、講師で来ていただいた方が赤面症で人前で話すのが苦手であったが、「苦手だから断る」のではなく、チャレンジしていくうちに赤面症を克服できたというお話をしていました。仕事で出会った方々からも、こんなふうにいろんなことを学ばせてもらっています。

② 依頼されたことはすぐ対応

自分から依頼したときも、相手にすぐ対応してもらえたら嬉しいですよね。人間関係を円滑にするという意味でも大事だと思い、心がけています。

③ その時々で与えられた仕事に対して最善を尽くす

時には、モチベーションが上がらないこともあるかもしれませんが、「自分の仕事が巡り巡って、こんなふうに役に立っているんだ」と自信を持つと、仕事に対する意欲が高まると思います。例えば、周りを見渡して、「マニュアル化されているほうがスムーズかもしれない」と思う業務について、自主的にマニュアルを作成しておくというのも「役に立つ」ことですよね。マニュアルによって仕事が早く正確にできることは県民の方々のためにもなりますし、また、自分の後任者にとっても仕事の効率アップに繋がりますよね。

④ 初めて会う人に対して先入観をもたない

仕事に限らず、たとえ、噂が耳に入ってきたとしても、「自分が話してみた印象」がどうだったかを大事にして、相手と接するようにしています。

⑤ 失敗したときは、どうやってリカバリーしたらいいかをすぐ考える。

失敗してしまうことは誰にでもありますよね。私も思い返すと恥ずかしくなるような失敗をした経験があります。失敗してしまう時というのは、焦っていたり気持ちに余裕のない時です。一度心を落ち着けて、ダメージが最小限になる方法を考えます。

⑥ 不平不満をなるべく口にしない。

溜め込みすぎも良くないので、吐き出すときはもちろん吐き出しますが、日常的に不満ばかり口にしていたら、うまくいくこともいかなくなってしまうと思います。若い時は不平不満を言ってしまうこともありましたが、ある程度の年齢になってからは、できるだけ言わないように心がけています。そうすることで仕事でもプライベートでも、心の余裕や相手を受け入れる余裕が少し出てきたような気がします。

趣味・癒しの時間

◎　目標はフルマラソン完走！

４０歳の頃に先ほどお話したような村山総合支庁での印象に残る仕事を経験できて、何かを始めたりチャレンジしたりするのは「年齢」じゃないと感じました。「走ること」を始めたのも４０代後半からです。ちょうどその頃だったと思います。

子どもが小さい頃にエアロビクスを始め、その後、ジムに通うようになりました。最初はウォーキングをしていたのですが、だんだん走ってみたくなって…。マラソンに挑戦するようになりました。ハーフマラソンは走れるようになったので、次はフルマラソンを完走したいですね。

《やまがたまるごとマラソンに参加》

◎　猫との癒しの時間

家では飼い猫に癒されています。今飼っている猫たちは、もともとは迷い猫でした。保健薬務課（当時）に勤務していた際に、動物愛護や生活衛生の仕事をしていたことがありました。ちょうどその頃に、殺処分される犬や猫を一般の方が引き取るという制度が始まりました。犬はかなり引き取られるようになりましたが、猫はまだ殺処分されるケースがあります。「殺処分をゼロに」という夢があるので、退職後は自分の好きなことを通して地域や社会に少しでも恩返しできたらという思いもあります。

愛猫たち

◎　同期の仲間とのつながり

同期入庁の女性５人で旅行に行くこともあります。退職した人もいるのですが、子育てもしていて、親世代と同居していてと境遇も似ていたこともあり、年に１回旅行に行ったり集まったりという交流が入庁時からずっと続いています。ありのままの自分を受け入れてもらえ、何でも言い合える仲間ですね。同期がいたから、仕事を続けてくることができたと言えるくらい、大事な存在です。

子育てと仕事

夫の父親が早くに亡くなっていたこともあり、夫の母とも同居し、子育てをしてきました。残業で帰りが遅くなった日も、夫の母が子どもの夕飯を準備してくれていたり、面倒をみてくれていたので、お互い気を遣う部分もありましたが、安心して仕事ができました。同居、別居、近居といろいろな形がありますが、自分が選択した環境で、自分も皆も気持ちよく暮らせるようにしていくことが大切だと思います。

子どもと関わる時は、遊ぶ時は同じ目線でわいわい遊んだり何かを一緒に作ったり、楽しい時間をお互い過ごせるように心がけてきました。また、「ふるさとの味」を伝えたいという思いがあったので、子どもが小さい頃から、機会がある時には、寒鱈汁等、私の地元の庄内の料理を作ってあげるようにしていました。庄内に限らず、内陸の料理も作りますが、そういった「山形の味」を子どもが美味しく食べてくれた時は嬉しいですね。

子育てでは、私が何気なく言った言葉を子どもがずっと気にしていたということがあり、コミュニケーションが大事だと思う瞬間がありました。「伝えたつもり」で終わるのではなくて、相手にきちんと伝えるということは子育てでも仕事でも大事ですよね。

また、子育て支援課で結婚支援の仕事をしていた時は、婚活支援のワークショップで結婚や子育ての経験者として話をすることができました。自分自身のプライベートでの経験が仕事に活かせた例だと感じています。

《同期会で旅行》

ロールモデル集読者へのメッセージ

仕事における男女の差はほとんどなくなっていると思いますので、ぜひ自分の力を存分に発揮してもらえたらと思います。男性、女性、違う部分はありますが、そういった違いを理解し合いながら協力していけたらいいですよね。

また、県庁全体が「チーム」として、県民の方々のために仕事をしていくという意識も大切にしていってほしいと思います。

最後になりますが、職員が幸せでないと組織は成長しないと思っています。職員が幸せであれば、良いアイディアが生まれて、良い行政、県民の方々を幸せにできる行政につながっていくものと考えています。

そういう県庁をみんなで作り上げていきたいですね。

「人との巡りあいは財産」
人と人との出会い、つながりの大切さを改めて感じるお話をお聞かせいただきました。